

平成 16 年 8 月 9 日

各 位

会 社 名 イーピーエス株式会社
代表者の役職名 代表取締役社長 巖 浩
(コード番号 4 2 8 2 東証第二部)
電 話 番 号 03-5804-7577 (企画推進部)

EPS、Baxter社のアジアパートナーに出資・業務提携

～輸血血液の安全対策としての病原体不活性化システムの臨床試験を受託～
-対象地域は、日本、中国、台湾、韓国、タイ、ベトナム、シンガポール-

イーピーエス株式会社（本社：東京都文京区 代表取締役社長：巖 浩、以下 EPS）は、バイオワン株式会社（本社：東京都豊島区 代表取締役社長：下坂 皓洋、以下バイオワン）に出資するとともに、バイオワンが行う輸血血液に混入した病原体を不活化する処理システム(Intercept Blood System:以下IBS)に関わる臨床試験の委受託に関し、業務提携致しました。

1. 提携契約日

2004 年 8 月 6 日

2. 出資額

出資額 2億円

3. 対象業務

- ・ 医薬品・医療用具等の開発・商業化戦略のためのコンサルティング
- ・ ライセンシングのサポート
- ・ 臨床試験（市販後含む）薬事申請に関わる各種業務の受託
- ・ 中国、台湾、韓国、タイ、ベトナム、シンガポール並びにその他EPSが対応可能な地域での、コンサルティングを含む各種サポート

4. バイオワンについて

バイオワンは、米国Cerus社が開発し、Baxter社が技術の共同保有者となっているIBSを、国内及びアジアでの展開を目指すベンチャー企業です。事業化にあたって、バイオワンは血小板用IBSの独占的製造販売ライセンス(日本及びアジア：韓国・台湾・中国・シンガポールなど)を取得しました。まずは血小板用IBSでの事業立ち上げ、その後、血漿用IBS・赤血球用IBSのライセンス導入並びにアジア展開を行う計画です。

この技術はヨーロッパで承認されており、すでにいくつかの国の血液センターでは、

INTERCEPT技術を採用して輸血用血小板供給に追加的な安全対策を施しています。

血小板用 IBS は、輸血用に採取された血小板の中に存在する可能性のある病原体、(バクテリア、HIV、HCV、および西ナイルウイルス、SARS、マラリアなど他地方へ伝播するものや新種の病原体をふくむ)を不活化することにより、輸血によって伝播する病気のリスクを低減させるシステムです。

米国 Cerus 社 (Nasdaq:CERS) は、ウイルス、バクテリア、その他の病原体および白血球を不活化することによって世界の輸血用血液の安全性を高めるための IBS を、Baxter 社と共同開発しています。

米国 Baxter 社 (NYSE : BAX) は、医療機器、医薬品、およびバイオテクノロジーにおける専門技術を活かし、癌、血友病、免疫不全、腎臓病、および外傷などの困難な症状の治療において、医療従事者をサポートし、患者さんの人生をより良いものにすることに貢献しています。

創設者の下坂皓洋氏は、キリンビールで医薬品事業の立ち上げた中心人物。同氏はキリン・アムジェンの事業構想立案、アムジェン社との交渉、キリン・アムジェン設立に携わり、キリン・アムジェン発足後も、医薬事業の中心人物として海外企業とのアライアンス、技術の国内及びアジア地域への導入を行いました。

5. 参考情報

2004年7月29日、米国Baxter社および米国Cerus社は、アジア地域における血小板用IBSの商業化のために、バイオワン株式会社との最終的な契約に至ったと発表しました。

参照：<http://www.baxter.co.jp/pdf/news/040729intercept.pdf>

6. 連結売上並びに利益に対する影響

業務は今期中に開始されますが、今期の連結売上並びに利益に対する影響は軽微です。来期以降の連結売上並びに利益に対する影響は、今期決算時に発表する将来計画に織り込んで参ります。

以上

本件に関するお問合せ先：

イーピーエス株式会社 企画推進部 長岡 達磨・南 丈裕 03-5804-7577

E-mail:info@eps.co.jp

バイオワン株式会社 取締役 中村 吉人 03-5614-7346 FAX 03-5695-8181